

小1の壁に密着 ～つながりと活力のある商店街学童を～

芦田なつみ・板垣友香・伊藤麻耶・野沢志保・田本健

要 旨

1、研究動機

学童保育に注目したきっかけは“待機児童問題”つまり、保育園や学童保育の定員数に対し働く保護者の数が急激に増えたため、入所できない児童が近年増加し保護者が働き続けることができないという問題です。2009年8月30日に行われた総選挙のマニフェストでは、保育園の待機児童問題に対する解決策が記載されていましたが、保育園に通っていた児童がその後利用するだろう学童保育の待機児童問題“小一の壁”は更に深刻な問題となっているのです。

2、学童保育の現状

この小一の壁には①待機児童問題と②預かり時間が短いという2つの問題があります。また指導員の働く環境も問題視されているのです。

3、提案内容 地域密着型学童保育 NPO 法人『すぽんじクラブ』

保護者・地域の方にアンケートやインタビューを行い、ご近所さん同士のつながりが薄れてきている、頼れる人がいないということが分かりました。そこですぽんじクラブの設置場所として商店街の空き店舗を利用することで子どもとのふれあいを通してつながりを取り戻し、街ぐるみで子どもの安全を守ります。また商店街では、衰退化が問題視されていることから活性化にもつながるでしょう。学童保育以外の活動として、学童保育開所時間外を利用し商店街の人を招いた『すぽんじ教室』、教室のない日は『すぽんじ広場』としてスペースを利用することでつながりを生むための場の提供を積極的に行います。預かり時間の問題に対しては、20時まで・土日祝日の営業を行います。指導員は学童保育の開所時間や学童保育内で家族の役割を果たすという面からも元小学校教員、教職課程の学生を採用します。学童と保護者、そして学童保育のある地域の人々が安心して快適に暮らせる世の中への第一歩となれたらと思います。